



Izmir

パイオニア・シティ

イズミール

壮麗なる歴史、碧い海、美味なる料理の街。

皇帝やスルタンたちの、力が、風が吹く街。

智恵、勇気、自由、そして癒しの街。

歴史家や考古学者、研究者にとっての宝物。

イズミール — 古のシルクロードがエーゲ海に出会い、

高層ビルが遺跡にまみえ、

未来への明るさと地平線が輝く街。

めくるめくコルドン大通り、ゆるやかな時を刻むセフェリヒサル、

そして、歓びあふれるチェシメ。

イズミール — オリーブ、いちじく、葡萄の街…。

自然とみずみずしさの故郷。

8500年の歴史を有し、何百年もの未来を望むイズミールは、トルコがヨーロッパに向けて開く西の港である。紀元前5世紀にペルシア皇帝ダレイオス一世が、この街へと続く“王の道”を敷いたことも、多くの神殿がこの街に造られたことも、単なる偶然ではない。

バルチョヴァの温泉で温められ、鳥の楽園の森に紡がれ、あまたの建築的傑作が散在し、絶妙なビーチに囲まれたイズミールは、エーゲ海の中にあって最も高貴なる宝石。

世界七不思議の一つに数えられるアルテミス神殿、古代の治癒施設であるアスクレピオン、セルスス図書館やゼウス神殿が、数千年にわたってイズミールが社会と文化の中心であり続けたことを見事に証明している。そして、これは、祭典や博覧会、フェア、学会などが年間を通じて開催され、現在へと引き継がれているのである。

イズミール — 恵み、豊かさ、そして麗しき街。



時計塔
コナック

イズミールは、3500年にわたって人々が暮らし、8500年の歴史を有する面積約12,012km²にわたるトルコ西部の大都市である。

港湾、経済的多様性、優れた人材、そして地勢に基づく良好な環境から、トルコ第三の経済規模を誇る。

現在、イズミールは急速に成長を遂げつつあり、2012年には最も発展した世界5大都市の一つに数えられている。



イズミールは、経済・社会面においてダイナミックな都市であり、快適な気候と、長い年月にわたって数多くの文化や宗教をモザイクのようにあわせ持ってきた都市と言えます。この長い歴史の中にあつては、古代ペルシア、古代ギリシア、アッシリア、古代ローマ、ビザンチン帝国、そしてオスマン帝国といった、この地を治めたさまざまな文明も、そのほんの一握りに過ぎません。

イズミールは、宗教的多様性を誇っています。教会やシナゴグ、モスク、そして、古代の神殿が、イズミールの中には共存しているのです。

約4百万人に上る人口の半数は30歳未満で、この街はエネルギーに満ち溢れています。イズミールは、何万人もの学生たちを迎え、科学者、芸術家、ビジネスマン、研究者たちへと育て上げていきます。

イズミールは素晴らしい気候に恵まれ、オリーブ、いちじく、ぶどう、綿花といった農産物に適した自然環境を有しています。また、さまざまな海の幸、ワイン、独特のハーブ類、そしてオリーブオイルの一大産地でもあり、最高にナチュラルな絶品料理の数々によって、美食家たちからの関心も高い街となっています。

イズミールは、海や空が青く開けた街である一方、「緑」豊かな街でもあります。この環境を守るため、太陽光、風力、地熱といった自然エネルギーの活用が進められています。また、スポーツセンターも数多く、アクティブな生活を好むイズミール市民の希望を叶えています。

ヴィクトル・ユーゴーが、その作中で“王女”と表したイズミールは、古くはスミルナとも呼ばれ、古代の貨幣にその姿が彫られるほどに由緒ある地であったのと同様、現在でも成長を続け、若さにあふれた、ダイナミックな都会となっています。



イズミール湾



エフェスのセルスス図書館は、イズミールにおいて最も壮麗な建造物の一つであることは間違いないでしょう。

古代ローマの元老院議員だったティベリウス・ユリウス・セルスス・ポレマネウスを偲んで造られたこの壮大な建物は、非常に良好な保存状態を保っています。

建設当時は2万5千人が住んでいたという華やかな街が、一体どのようなものであったかを想像することは難しくとも、過去の栄光の名残は垣間見ることができます。

当時、羊皮紙でできた1万2千冊の蔵書があったとされるセルスス図書館は、同時に、当時を代表する最も美しい建築でもありました。

セルスス図書館, エフェス
セルチュク



永遠なる街

イズミールは、二度にわたって街が形成されました。初めに建造されたのは、紀元前三千年頃の古代で、スミルナと呼ばれていました。バイラクルでの発掘調査では当時の遺構が出土しており、これらは、イズミール北東に位置するテペクレ地区で発見されています。標高250メートルのバイラクルの丘では、ギリシア神話に登場するゼウスの息子の一人、タンタロス王に捧げられた紀元前7世紀の遺跡が発見されています。

二度目の街の建造は、アレクサンダー大王の将軍の一人によるもので、4世紀頃、パゴス（現・カディフェカレ）周辺に築かれたものとされています。伝説によると、アレクサンダー大王が、ある日、パゴスの丘の辺りで狩りをしていたとき、木の下で眠りに落ちると、夢に二人の森の精霊が現れました。すると、この精霊たちは、この辺りに街を築くように告げ、その街に暮らす人々に幸せと恵みをもたらすことを約束した、と伝えられています。

ケメル・アルトゥにある由緒あるバザールには、イズミール特産のギフトが賑やかに揃い、これらを眺めてそぞろ歩く観光客であふれています。街の最も歴史的な地区であり、ショッピング街でもあるケメル・アルトゥは、イズミールでも多くの人々が行き交う場所となっています。入り組んだ路地や小さな広場ではお買い得な品々が見つかることでしょう。

今日においても、とどまることなく進化し続けるカディフェカレは、ビザンチン帝国、セルジューク朝、オスマン帝国時代に何度も修復されています。標高186メートルに位置するこの城跡は、街の最も高い場所の一つに位置し、美しいイズミールの景色を一望できるようになっています。

イズミールは無数の歴史に彩られています。世界各地の古代の集会場・アゴラと同様、アレクサンダー大王の時代に建造されたイズミールのアゴラは、古代世界における商業、政治、宗教の中心地の一つとなっていました。今日、バザールとなっているこの場所は、当時、議会や市民の広場としての役割を持っており、イオニア期のアゴラの中でも最大規模であり、また、良好な保存状態で残されています。

ヘレニズム時代にベルガモン王国の首都として栄えたベルガモン（ベルガマ）や、古代ギリシア時代・イオニア期の12都市国家の一つだったエフェソス（エフェス）は、イズミールの歴史学者たちにとっては、夢の都市と言っても過言ではありません。世界の七不思議の一つに数えられるアルテミス神殿でも知られるエフェスでは、この時代、ゼウス神殿も建てられていました。

イズミール市内の建造物で最も知られているのは、恐らくエレベーター塔でしょう。1907年に、銀行家だったユダヤ人のネスィム・レヴィによって造られたこのエレベーターは、沿岸部から山頂へと昇降しています。現在は、電動式になっていますが、当初、この2基のエレベーターは水力で動いていました。上部階にあるバルコニーからは、イズミールの見事な景色を一望でき、現在は素晴らしいレストランも営業しています。エレベーター下のかわいらしい一画の地区には、国際的に有名な音楽家、ダリオ・モレノが住み、その名を刻んでいます。



エレベーター塔
コナック

人口 4 百万人の
50%が 30 歳 以下

人口の
91% が
市内
中心部に
居住

平均年齢
34 歳

平均気温
27.5 °C
13 °C

年間平均
300 日
晴れ

38.4202° N, 271.283° E

8500
年の 歴史



30
地区
629 km
海岸線

面積 12,012 km²

-  史跡
-  ヨットハーバー／マリンスポーツ施設
-  海水浴場
-  アウトドアスポーツ施設
-  ショッピングセンター
-  温泉
-  ウィンタースポーツ施設
-  博物館
-  自然公園
-  野鳥保護区
-  空港



 **Izmir**
 バイオニア・シティ



© 2012. イズミール開発機構

